

開会挨拶

小原 克博

(京都高大連携研究協議会 会長／大学コンソーシアム京都 理事長／同志社大学 学長)



ただいまご紹介にあずかりました、京都高大連携研究協議会会長、公益財団法人大学コンソーシアム京都理事長の小原でございます。第22回高大連携教育フォーラムの開催に当たり、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

本日は全国から、高等学校、大学の教職員、学生、教育関係者など、多くの方々にご参加ただけましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。本日のフォーラムが皆さまにとりまして新たな発見の場となり、これからの教育活動に生かすことができる、実りある機会となればということをお願いしております。

本フォーラムは毎年、高等学校・大学間の接続教育における国内動向の情報共有と、京都における取り組みの情報発信、および事例研究を目的に開催しており、今回で第22回目となります。主催者であります京都高大連携研究協議会は、産官学という京都ならではの面と面との連携による人材育成を目指し、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、京都商工会議所、大学コンソー

シアム京都が連携して、2003年5月に発足をいたしました。本協議会が今日という日を迎えられるのは、ひとえに本日ご参加いただいている皆さまをはじめ、本協議会を構成する関係各位の並々ならぬご理解とご協力の賜物と理解しております。

現在、日本は生産年齢人口の急減や労働生産性の低迷、グローバル化など、激動の時代を迎えております。これからは労働、職業のあり方も大きく変わっていくことが予想されております。今ある仕事が、これから将来も長きにわたって存在するとは限りません。子どもたちが将来、社会に出るときには、今は存在していないような仕事に就く可能性も非常に高いと言われております。こうした非常に変化の激しい、いわゆるVUCAの時代を生きていくために必要な学習の1つが探究学習だというふうに言われております。探究学習とは生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集、整理、分析したり、周りの人たちと意見交換、協働したりしながら進めていく学習活動のことです。

高等学校では学習指導要領の改定により、2022年度よりこれまで取り組まれてきた総合的な学習の時間を改め、生徒自身が主体的に課題を設定し探究する、総合的な探究の時間が始まり、今まで以上に自分自身のあり方や生き方をしっかりと見詰め直し、考えながら関連する課題を自らが発見し解決していく、キャリア教育につながる取り組みがなされております。こうした状況をしっかりと踏まえた上で、大学側

といたしましても、また大学コンソーシアム京都としても、高大連携事業にどのように関わっていくか、これから入ってくる入学者にどのように対応する必要があるのかということも大きな課題であると感じております。

本日のフォーラムは「高校から大学、そして社会へとつながる『学び』を育てる～高校生・大学生のキャリア形成・発達の視点から～」をテーマに開催いたします。まさに高校での探究学習の取り組みの現状と、今後を学ぶには最適な内容であると思います。本日、参加された方々の、それぞれ立場は違えども生徒から学生、高校から大学、社会へと向かう一人一人のキャリア形成や発達の視点から共に理解を深めることで、今後の高校と大学との連携が一層深まっていくことを期待しております。

最後になりましたが、ご多用中にも関わらず、本フォーラムにご参加いただきました皆さま、また本日も登壇をご快諾いただきました先生方に感謝を申し上げます。それと共に、皆さまのますますのご健勝と今後のご活躍を祈念いたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。